



独立行政法人  
大学改革支援・学位授与機構  
National Institution for Academic Degrees and Quality Enhancement of Higher Education

# 機構ニュース

Vol.246 2023 December

## 今月の記事

### Top News

- NIC-Japanセミナーシリーズ「マレーシアの教育制度・高等教育資格」を開催  
……………1
- 宮崎和光教授が計測自動制御学会システム・情報部門学術講演会2023で【SSI優秀論文賞】を受賞  
……………2

### 学位授与事業

短期大学・高等専門学校卒業者等を対象とする単位積み上げ型の学位授与関係

- 2,367人から学士の学位授与の申請  
—令和5年度10月期申請分— ……………3

機構認定の教育施設（各省庁大学校）の課程修了者への学位授与関係

- 22人から博士の学位授与の申請  
—大学院博士課程相当の課程修了者—  
……………6

### 調査研究

- 研究開発部新任教員紹介 ……………7

### 機構の窓

- 会議の開催状況 ……………9

### 主要行事日程

- Schedule（12月～2月） ……………10

## TOP NEWS

### ○ NIC-Japan セミナーシリーズ「マレーシアの教育制度・高等教育資格」を開催

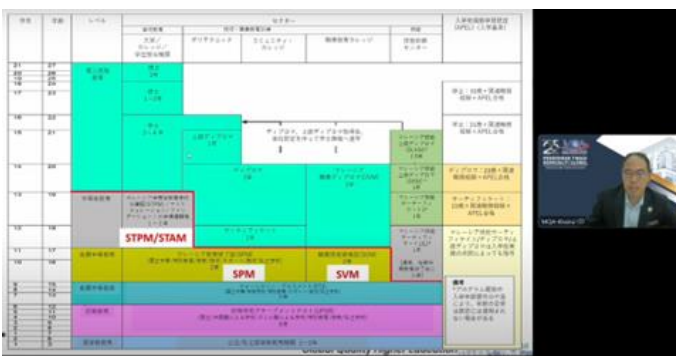
当機構の高等教育資格承認情報センター（NIC-Japan）では、学生や研究者の国際的なモビリティ向上を目的とした高等教育資格の円滑な承認に資する情報提供活動の一環として、海外の教育制度や資格審査の事例など、資格承認にまつわる諸テーマについて国内外の有識者よりお話しいただく「NIC-Japan セミナーシリーズ」を2021年より開催しています。

今年度の第2弾として、11月21日（火）に「マレーシアの教育制度・高等教育資格」をテーマにオンラインでセミナーを開催しました。講師にはマレーシア資格機構（MQA）の副CEO（質保証担当）であるカイル・サレ・ビン・モハメッド・サハリ氏をお招きしました。当日は大学等で入試業務や国際業務に携わる教職員を中心に約170名の参加がありました。

はじめに NIC-Japan の森利枝センター長から挨拶があり、講師への謝意と今回のセミナーに対する期待が示されました。講演では、マレーシアの教育制度の概要をはじめ、「UPU」と呼ばれる大学出願システムや MQA の行うアクレディテーション、外国資格の同等性評価などについて包括的な説明がありました。また、マイクロクレデンシャルと学位プログラムをつなげる仕組みやマレーシアにおける国境を越えた教育（TNE）の状況などについても分かりやすい解説がなされました。

講演後には熱心な質疑応答が交わされ、盛会のうちに終了しました。

なお、今回のセミナーシリーズで使用した資料は、[NIC-Japan のウェブサイト](#)からダウンロードすることができます。



講演の様子



（左）カイル氏と（右）モデレーターの堀田シニアアドバイザー

○ 宮崎和光教授が計測自動制御学会システム・情報部門学術講演会 2023 で【SSI 優秀論文賞】を受賞

計測自動制御学会システム・情報部門学術講演会 2023 で令和 5 年 11 月 11 日に発表した、研究開発部・宮崎和光教授「意識的意思決定システムのマルチエージェント環境下への拡張」が【SSI 優秀論文賞】を受賞しました。

<https://www.sice.or.jp/org/SSI2023/#award>

以下に宮崎教授による受賞論文の概要についての説明を掲載します。

意識とは何だろう？ の書き出しで最初の論文を書いてから 10 年以上「意識的意思決定システム」に関する研究を続けている。意識に興味があり、興味の赴くままに書籍を読み、これまでに 7 件ほど関連する発表を行ってきた。書籍を通じ感銘を受けたことを綴ったのみでは、工学の論文とはほど遠いものとなりかねないので、いかにして工学に近づけるか苦心した。本稿の書き出しは、この点から、当初の「意識とはなんだろう？」ではなく、「意識の研究には、ヒトの脳の機能の解明という側面と、その機械(コンピュータ)への実装という側面が存在する。」としているが、元々は趣味で始めた研究なので、これはある種の言い訳に過ぎない。

前置きが長くなったが、本稿では、書きたいことを書き綴った「意識」の話を浮かせないために捻り出した「意識的意思決定システム」(Fig.1) がベースになっている。そこでは、人の意思決定過程を 3 つのモジュール(即応器、熟考器、調停器)からなるものと考え、各モジュール、およびそれらの間の関係を定義することで、未知環境への適応を目指す。どの部分を学習させ、どの部分を作り込むかで、様々な実験が可能な自由度の高い枠組であるが、中でも本稿は、この「意識的意思決定システム」を有するロボットが 2 台存在するマルチエージェント環境を想定した論文となっている。

基本的には自分のホームでもある「強化学習」の問題設定に寄せて、Fig.2 に示す環境で数多くのシミュレーション実験を行い、得られた結果を統計的に検定し、シングルエージェント学習に対する有意性を主張した、といった内容の論文である。言うなれば、既に提案していた枠組み(意識的意思決定システム)をマルチエージェント環境下に拡張したのみではあるが、自分の好きなことを行なって賞を頂けたのは正直とても嬉しい。「フレーム問題の解決」<sup>注釈</sup> など、まだまだこの線でやりたいことがあるので、これからも地道に研究を続ける予定である。

注釈:「有限の情報処理能力では、現実には起こり得る無限の出来事には対処できない」という人工知能における大問題

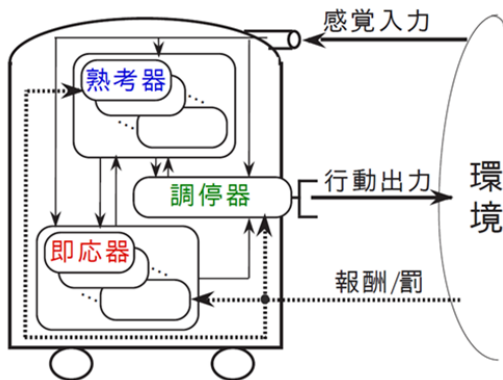


Fig.1: 意識的意思決定システム

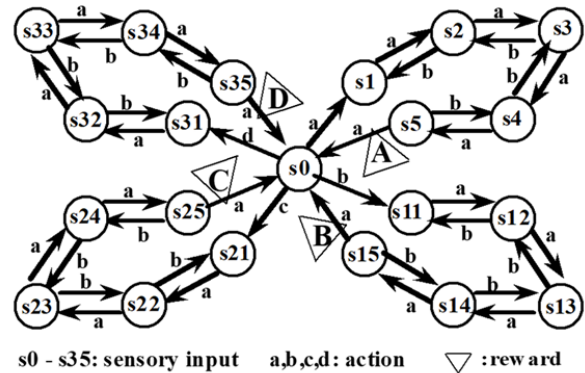


Fig.2: 実験に用いた環境

これらの図は受賞論文から引用

## 学位授与事業

### 短期大学・高等専門学校卒業者等を対象とする単位積み上げ型の学位授与関係

#### ○ 2,367人から学士の学位授与の申請 —令和5年度10月期申請分—

短期大学、高等専門学校卒業者及び専門学校修了者等594人から、18専攻分野36専攻の区分にわたり学士の学位授与の申請がありました。

この申請に関して、令和5年11月10日（金）開催の学位審査会において機構長から学位授与の可否について審査の付託があり、これを受けて学位審査会では、修得単位の審査及び学修成果・試験の審査を担当する専門委員会の指定が行われました。

各専門委員会における修得単位の審査及び学修成果・試験の審査を経て、令和6年2月19日（月）開催の学位審査会で最終審査が行われ、合格者には令和6年3月末までに学士の学位を授与する予定です。

また、短期大学及び高等専門学校の特例適用専攻科修了見込み者1,773人から、10専攻分野19専攻の区分への特例による学士の学位授与の申請がありました。

この申請に関して、令和5年11月10日（金）開催の学位審査会において機構長から学位授与の可否について審査の付託があり、これを受けて学位審査会では、修得単位の審査及び学修総まとめ科目の履修に関する審査を担当する専門委員会の指定が行われました。

各専門委員会における修得単位の審査及び学修総まとめ科目の履修に関する審査を経て、令和6年2月19日（月）開催の学位審査会で最終審査が行われ、合格者には令和6年3月末までに学士の学位を授与する予定です。

#### <令和5年度10月期学士の学位授与申請者数>

##### （基礎資格別）

基礎資格	申請者数（人）
短期大学卒業者	557 [262]
高等専門学校卒業者	1,522 [1,511]
専門学校修了者	229
高校等専攻科修了者	7
大学中退者	32
飛び級	2
大学卒業生	17
外国資格	1
合計	2,367 [1,773]

※ [ ]内は特例適用専攻科修了見込での申請者数で内数。

##### （見込み申請者の内訳）

区分	申請者数（人）
短期大学専攻科修了見込者	555 [262]
高等専門学校専攻科修了見込者	1,520 [1,511]
合計	2,075 [1,773]

※ [ ]内は特例適用専攻科修了見込での申請者数で内数。

## (専攻の区分別)

専攻分野の名称	専 攻 の 区 分	申 請 者 数 ( 人 )
文 学	国 語 国 文 学	1
	英 語 ・ 英 米 文 学	6
	仏 語 ・ 仏 文 学	1
	歴 史 学	7 [6]
	心 理 学	1
教 育 学	教 育 学	157 [143]
社 会 学	社 会 学	1
教 養	地 域 研 究	2
社 会 科 学	社 会 科 学	1
法 学	法 学	3
経 営 学	経 営 学	11 [10]
理 学	数 学 ・ 情 報 系	3
	生 物 学 系	1
	総 合 理 学	1
薬 科 学	薬 科 学	3
看 護 学	看 護 学	303 [20]
保 健 衛 生 学	検 査 技 術 科 学	7
	臨 床 工 学	1
	放 射 線 技 術 科 学	14
	理 学 療 法 学	14
	作 業 療 法 学	11
	言 語 聴 覚 障 害 学	5
鍼 灸 学	鍼 灸 学	4
口 腔 保 健 学	口 腔 保 健 衛 生 学	76 [29]
	口 腔 保 健 技 工 学	7
柔 道 整 復 学	柔 道 整 復 学	1
栄 養 学	栄 養 学	40 [23]

専攻分野の名称	専攻の区分	申請者数 (人)
工 学	機 械 工 学	325 [325]
	電 気 電 子 工 学	452 [451]
	情 報 工 学	267 [252]
	応 用 化 学	182 [180]
	生 物 工 学	21 [21]
	材 料 工 学	41 [41]
	土 木 工 学	128 [128]
	建 築 学	99 [91]
	社会システム工学	12 [11]
商 船 学	商 船 学	1 [1]
農 学	農 学	1
家 政 学	家 政 学	6 [6]
芸 術 学	音 楽	48 [13]
	美 術	76 [22]
	演 劇	26
合 計		2,367 [1,773]

※ [ ]内は特例適用専攻科修了見込での申請者数で内数。

## 機構認定の教育施設（各省庁大学校）の課程修了者への学位授与関係

### ○ 22人から博士の学位授与の申請 ー大学院博士課程相当の課程修了者ー

大学院の博士課程に相当する教育を行う課程として認定されている防衛医科大学校医学教育部医学研究科の令和5年9月修了者22人から、博士の学位授与の申請がありました。

この申請に関して、令和5年11月10日（金）開催の学位審査会において機構長から学位授与の可否について審査の付託があり、これを受けて学位審査会では、論文の審査及び試験を担当する専門委員会として、医学・薬学専門委員会が指定されました。

専門委員会における論文の審査及び口頭試問を経て、令和6年2月19日（月）開催の学位審査会で最終審査が行われ、合格者には防衛医科大学校を通して、博士（医学）の学位を授与する予定です。

#### <博士の学位授与申請者数>

認定課程名	専攻分野	申請者数 (人)
防衛医科大学校 医学教育部医学研究科	医学	22
合計		22

## 調査研究

### ○ 研究開発部新任教員紹介

嵐田 敏行 研究開発部教授



私が大学で評価の仕事を始めしたのは、国立大学法人化の前年である平成 15 年（2003 年）4 月です。それまでは大学院（博士後期課程）で、江戸時代や室町時代など歴史時代の降水量を湖の堆積物から復元する、という

研究をやっておりました。ひょんなことから茨城大学の事務官に着任し、思えばこの 20 年ほどの間、国立大学法人評価を 3 回、機関別認証評価を 3 回担当してきました。そういう意味では、大学改革支援・学位授与機構との付き合いは長い方かもしれません。昔は紙の評価書を提出するのが基本でしたので、根拠資料と一緒にダンボール箱に詰めて、それを抱えて電車を乗り継ぎ、何回も小平本館に行った記憶があります（郵送する余裕がなかっただけです。持参が基本ではないです）。その機構に職員（教員）として毎日通勤することになるとは、なかなか感慨深いものがあります。

令和 5 年 10 月末までの間、前任校では評価の名の付くことはだいたいやらせてもらったと思います。国立大学法人評価に関連するところだと、評価書の作成だけでなく、中期目標・計画の調整や進行管理も担当しておりました。実際に各部局さんに工程表や年度計画を作ってもらい、それをみんなで点検評価しながら進めていくわけです。私は関連情報を提供したり、さまざまな方と意見交換（愚痴や悩みごとを聞いてあげる？）をすることで大学運営、部局運営を支援できたのではないかと、思っています。機関別認証評価についても、1 巡目はとにかく資料を集めて評価書を作ることで精一杯でした。2 巡目ではマネジメントを意識するのですが、なかなか難しかったことを覚えています。教育の内部質保証が重点評価項目になった 3 巡目ですが、機構のみなさんと一緒

に「教育の内部質保証のガイドライン」を作ったり、それをもとに実施した勤務校での教育改善の取組が文部科学省の大学教育再生加速プログラムに採択されたりと、いつもの「防戦一方(?)」というわけではありませんでした。茨城大学では、教学マネジメント指針の具現化を目指して教育の内部質保証体制の実践を取り組んでいました。それこそ全学を挙げて試行錯誤や議論を繰り返して、学内各所で継続的かつ組織的な改善活動を行うことができる仕組みを整備していきました。ただ、実際、私はデータや情報を使ってみなさんを焚きつけていただけで、学生のためには努力を惜しまない先生方、有能なスタッフに囲まれていたからこそ推進できたのではないかと、思います。

情報マネジメント（データベース）関連では、研究者データベース、中期目標・計画の運用システム、教務情報システムなど各種情報システムの運用に携わっていました。加えて、先生方が個人単位で授業点検を行うための業務システム、教育プログラムごとに授業アンケート結果などを見ながら改善のための議論をしてもらうためのシステム、学内のサーベイ結果を可視化の上、共有してもらうための業務システムなどを自作(?)し運用していましたが、これらも茨城大学情報戦略機構のみなさんにかかなり助けてもらっていました。

総じて、さまざまな方に支えられて裏方(?)として大学運営を支える業務を続けてきたわけですが、大学評価や IR (Institutional Research) などの現状把握部門は、実際に何かを決めたり、改善するわけではありません。必要な情報を、必要なときに、必要とする方に、必要な分だけ提供する機能です。もちろん、そのためには日頃から「学内のどこで何が起きているのか」「次にどうという展開になるのか」という情報を収集・交換しつつ、必要な情報（データ）を準備するわけです。言うなれば、「昼にラーメンを食べたそうな人がいるなあ」と思え



ば食材を仕入れて仕込みをしておくような話です。もっとも、いつもよい食材が手に入るとは限らないので「微妙な素材でもそれっぽく調理する技術」については、それなりに修行を積めたと思います。また、食べ物も情報も冷めないうちに召し上がっていただく必要があるわけですので、「お出しするタイミング」についてもいろいろ勉強させていただき、教育改善情報の利活用・ロジスティクスを司る料理人？みたいなことは、なんとかできるようになった気がしております。

さて、大学評価ですが、「この評価をやったら次にやることが見えてきた」と自己点検評価に携わった方々に思ってもらえるような評価が最上なのではと思っています。今回、私は評価機関に採用されたので、今後、さまざまな評価に携わっていくと思います。各大学さんには、かなりの手間暇をかけて評価を実施してもらおうわけですが、どうすれば「評価のために評価をやっている」ということにならないか、ということを考えています。逆に言えば、どうすれば「やらされ感たっぷりで評価をやったけれど意外と自大学の状況が見えてきた」「騙されたと思って内部質保証の取組を続けていたら意外というふうになってきた」というような状況になるのか、と考えています。評価や改善は長い営みです。基本的にゴールはありません。そうすると「目先の成果」よりは「続けること」も十分に意識していただきながら、本当に大学の運営の役に立つ自己点検評価を多くの大学さんにやっていただきたい、と思います。そのために今後も精進していきたいと思います。よろしく申し上げます。

---

しまだ としゆき 修士（理学）（金沢大学）

令和5年10月まで 茨城大学 全学教育機構

総合教育企画部門 教授

令和5年11月から 本機構研究開発部教授

## 機構の窓

### ○ 会議の開催状況

#### ・学位審査会

第3回 令和5年11月10日（金） 14時00分～15時30分 （ウェブ開催）

議事

- 1 短期大学及び高等専門学校卒業者等に係る学士の学位授与の審査の付託について
- 2 認定課程修了者等に係る学士，修士及び博士の学位授与の審査について
- 3 特例適用専攻科の変更の届出に係る審査の付託について
- 4 学士，修士及び博士の学位取得者数について
- 5 その他

## 主要行事日程

### ○ Schedule

12月

日	行事名	担当課
4日	大学機関別認証評価検討ワーキンググループ（第4回）	評価支援課
6日	令和5年度大学等の質保証人材育成セミナー（第2回）	評価企画課
7日	令和5年度大学・高専機能強化支援事業選定委員会（第3回）	事業推進課
7日	<a href="#">大学ポートレートステークホルダー・ボード</a>	評価企画課
10日	令和5年度 10月期学位授与試験（面接）（東京地区）	学位審査課
17日	令和5年度 10月期学位授与試験（小論文）（東京地区、大阪地区）	学位審査課
18日	国立大学教育研究評価委員会（第73回）	国立大学 評価室

1月

日	行事名	担当課
22日	大学機関別認証評価委員会（第2回）	評価支援課
30日	法科大学院認証評価委員会（第2回）	評価支援課
31日	高等専門学校機関別認証評価委員会（第3回）	評価支援課

2月

日	行事名	担当課
7日	大学・高専機能強化支援事業 令和5年度機能強化会議	事業推進課
14日	<a href="#">大学ポートレート運営会議</a>	評価企画課
19日	<a href="#">学位審査会（令和5年度第4回）</a>	学位審査課
19日	大学機関別認証評価検討ワーキンググループ（第5回）	評価支援課

訪問調査

	行事名	担当課
10月～12月	訪問調査（大学機関別認証評価、高等専門学校機関別認証評価、法科大学院認証評価）	評価支援課



独立行政法人

大学改革支援・学位授与機構

National Institution for Academic Degrees and Quality Enhancement of Higher Education

